

臨床研究の実施に関する情報公開

金沢医科大学（病院）では、研究倫理審査委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施しています。

患者さん又は患者さんの代理の方が、この研究のために患者さん本人の試料・情報を使用・提供されることにご了承いただけない場合は、問合せ先までご連絡ください。

研究課題名	意識障害を有し頻回な胃管自己抜去事例の経口摂取移行までの実態調査 ～意識障害と嚥下評価と離床との関連～
研究機関名	金沢医科大学病院
研究責任者	金沢医科大学病院 看護部 柳谷 幸子
研究期間	倫理審査委員会承認後 ～ 2018 年 12 月
対象者	2017年度に当院脳神経外科、神経内科を受診された脳梗塞、脳出血の患者さんで胃管自己抜去を起こした方
当該研究の意義・目的	A病棟（脳神経外科・神経内科）では、意識障害を有する患者の胃管や末梢ラインの自己抜去件数が多く、同一患者が胃管を頻回に抜去する事例がありました。このため、行動制限が強化されていましたが、行動制限は患者に苦痛を与えるなど倫理的にも問題があるため、その苦痛を最小限にするために間欠的な胃管栄養法を導入し、早期に経口摂取が獲得できる介入が必要となります。 本研究では間欠的な胃管栄養のタイミングや経口摂取獲得への理学療法・言語療法・嚥下訓練等の介入方法の検討に繋げるために、意識障害を有し頻回に胃管を自己抜去した事例の経口摂取への移行までの実態を調査し、経口摂取への以降までの意識障害と嚥下評価と離床との関連を明らかにしたいと考えます。
方法および研究で利用する試料・情報について	この研究のために、患者さんに新たな検査や費用が追加されることは一切ありません。電子カルテから、上記期間中に得られた以下のデータを収集し、本研究のために使用させていただきます。研究によって得られた知的財産の所有権は研究組織および研究者に属します。 情報：病日、意識レベル、安静度、点滴、経管栄養、理学療法、言語療法、嚥下評価、経口摂取量 等
外部への資料・情報の提供	外部へのデータ提供はありません。
個人情報の開示に係る手続き	個人情報の開示に係る手続きは、下記の問合せ先にご相談ください。
資料の閲覧について	あなたからのご要望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、この研究の計画や方法についての関連資料をご覧いただくことができますのでお申し出下さい。
問合せ先	その他、この研究に関するお問合わせは、下記へご連絡ください。 金沢医科大学病院 看護部 6階東病棟 柳谷 幸子 住所：石川県河北郡内灘町大学1-1 ☎：（代表）076-286-3511 内線4630

作成日： 2018年4月25日